Fukushima Association of Corporate Executives
# ふくしま経済同友
2020.4 No.26 春号
福島経済同友会

## □最近の活動状況

**【新年懇談会】**
— 1月30日(木)ザ・セレクトン福島 —
講　師　薬師寺
　　執事長　大谷 徹奘　氏
テーマ　「心のしくみと幸せの条件」
参加会員数　66名

高橋 代表幹事

講演会に先立ち、高橋代表幹事が「昨年の台風 19 号と豪雨による水害、今年の暖冬と異常気象が続いており、経済への影響が懸念されるが、会員同士それぞれが知恵を出して乗り切っていきたい」と今年一年の県内経済の発展に向けて挨拶されました。

その後、講師に奈良薬師寺執事長の大谷徹奘様をお招きして「心のしくみと幸せの条件」と題してご法話をいただきました。以下、講演録を掲載します。

### ○はじめに

今日、最初に覚えていただきたいことがあります。それは、薬師寺は、お寺にお墓を持たずお坊さんは一切葬儀に触れることがないということです。ですから薬師寺では、一緒に生活をしている仲間の坊さんが死んでもお経を上げません。

皆さん方は、一人に一つずつ心を持っています。その心の使い方によって、私たちは自分の目の前の世界を幸せにも不幸にも変えることができます。その心の使い方を、徹底的に訓練する学校が薬師寺です。今日は、薬師寺という名前の心の学校から、皆さん方が一人に一つずつ持ちながら一番扱いにくいその心を一緒に勉強するために私はここへ来させていただきました。

### ○心のしくみ

「心が大事だ。心を磨け。心の時代だ」と盛んに言われます。皆さん方の心が何からできているのかを勉強していきたいと思います。本当は分解することはできませんが、あえて現代的に分解すると、心を作っている要素は「体験・経験」「価値観」「生き方・考え方」の3つです。この中で一番大事な字は「験(しるし)」です。私たちの心はもともと真っ白です。そこへ様々な「体験・経験」をすることによって「しるし」が付いていきます。

「あなたの心はどこにありますか？」と質問されたら、頭や胸や腹など一部分ではなく、答えは「自分」となります。「自分」という言葉の下に「別」という字を付

講師　大谷 徹奘 氏

けて「自分別」というのが原語です。「分別」とは「好き・嫌い」「良い・悪い」を意味しています。「自」とは「～より」と読ませる字です。私たちは、身をもって経験したことにより好き嫌いを決めているのです。

その自分という言葉を、漢字一字で「我(われ)」と表します。「我」を現代語に訳すと「私は」という単数の言葉です。「私たち」という複数の言葉ではありません。なぜかと言うと、一人一人「体験・経験」が違い、同じ「価値観」を持っている人は一人もいないからです。この字を「が」とも読みますが、そうすると「我が強い」という言葉を思い浮かべる人も多いでしょう。よく「我をなくせ」とか「無我」とか言われますが「我」はなくなりません。なぜなら、「我」は自分の経験だからです。そして、この「我」の出し方が問題です。「我」を強く出してしまうと「人の話を聞かない」「自分の意見しか言わない」と周囲から煙たがられ、最終的には「孤立」してしまいます。「孤独」と

「孤立」は違います。私たちは皆「孤独」です。一人で生まれて、一人で生きて、一人で死んでいく。これが「孤独」です。だけど私たちは一人ぼっちになってはいけません。私たちのことを「人(ひと)」と言いますが、元々は「ひとつ」という単数を表す数の言葉です。その「つ」が取れ「ひと」になりました。だから私たち「人」は単数です。しかし、私たちは「人」の「間(あいだ)」でしか生きていくことができません。だから「間」という字を付けて「人間」という言葉になりました。「我」を強く出してしまうと「人」の「間」が保てなくなり「孤立」してしまい、寂しい思いをしなければならないということになります。

「孤立」を仮に「一人ぼっち」と訳すと、その反対は「仲間がいる」ということです。「仲間がいる」という言葉を日本人は「和」という字で表しました。この「和」という字は「禾」へんに「口」と書くことから、「同じ田んぼで獲れたお米の収穫を祝って一緒に食べる」という意味です。その上に「調(ととのえる)」を付けて「調和」、英語では「ハーモニー」と訳します。周囲の意見を調えた上で、自分の意見を話すことが「孤立」しないために重要となります。

五官と言われる人間が持っている5つのアンテナは「目・耳・鼻・口・皮膚」です。このアンテナを使って皆さん方は常にフルパワーで外側を見ています。私たちは外側のことをよく知っているから、人のことをよく批判できます。この5つのアンテナは「表向きである」という共通点があります。「人の振り見て我が振り直せ」という諺があるように、自分の内側を指すアンテナは1本も付いておらず、自分のことはあまり見えていません。今まで生きてきたプライドから「自分だけが正しいから人の話など聞く必要はない」と独善的になり、「自分さえ良ければいい」と傲慢になってしまう。そうすると「孤立」してしまいます。その反対は「共栄」と「謙虚」です。「共に栄える」と書きますが仏教では大変重要な言葉です。相手のことを考え必要なときに必要なように伝える謙虚さが大切になります。

私が考える「幸せの条件」で最も重要なことは「聴」です。相手が何を言いたいのか話を聴くことから「聴話(ちょうわ)」という言葉で表します。私が初めに「薬師寺はお墓を持たず葬儀をしないお寺です」と言いました。皆さん方はそれを聞いたことにより「葬儀をしない坊さんもいる」ことを知りました。このように「体験・経験」をすることによって、今までの自分とは違うものを受け入れ、私たちはいくらでも豊かになり、自分を磨いていくことができるのです。けれども、私たちはいつの間にか我が強くなってしまい、独り善がりになってしまいがちです。すると、最後は寂しい人生を送らなければならない…そうならないように気をつけていただきたいです。

## ○人との付き合い方

「価値観」を漢字一字で書くと「思」という字で表せます。今日、この一字だけは覚えてください。これから話すことは、漢字の成り立ちには全く関係がありません。思い通りになれば幸せですが、思い通りにならないと腹が立ちます。私たちは自分の「思い」だけで生きているのです。この「思」という字は、上が「田んぼ」で下が「心」です。田んぼはお米を育てるところです。水を貯めるために畔とか畝という土手があります。つまり、田んぼは限られたエリアであると言えます。私たちは所詮、自分の家庭、自分の学校、自分の会社、自分の国という限られたところでしか自分の「心」を育てることができないのです。そして、人間の一番悪い癖は、自分の養ってきた心は「○(マル)」とし、自分以外の答えは全部「×(バツ)」としてしまうことです。私たちはそれぞれの価値観を持っていますので、お互いに対話しなければなりません。自分も大事だけれども、相手も大事にしてあげることが必要であるということを覚えておいてください。

## ○自分との向き合い方

幼稚園に通っている小さな子供にも、人生を80年90年歩んだベテランの方にも迷いはあります。私たちは意識して生きるようになってから死ぬ瞬間まで迷いと悩みが同居しています。迷ってばかりいる私たちが悟りを得るため、幸せになるためのガイドブックがお経です。「悟り」の語源は「自覚悟(じかくご)」です。上の二文字を取ると「自覚」、下の二文字を取ると「覚悟」、これらを略して「悟り」といいました。この3文字で勉強することにより「幸せって何か」「悟りって何か」「自分で自分の心」が分かります。大切なことは「自分の命をどう使っていくか」ということです。人にやらされている間は、ストレスを溜めるに過ぎません。だれも触るこ

とができない、一度限りの人生です。自分の腹を据えて、腹をくくり、生きていくことが大事です。

私は高田好胤和上に憧れて15歳で坊さんになりました。「心が大事だ、心を磨け」と言ってくれる人は世の中にたくさんいますが、高田和上はその方法論を教えてくれたから弟子になりました。その高田和上が薦めたことが写経です。お経を写していると間違ってはいけないと夢中になり書いていることを忘れます。そうすると、目・耳・鼻・口・皮膚から出ている電波が徐々に内側を向き始め「人のことを言うのもいいけど、お前は？」と自分と向き合うことができるようになります。

一番有名なお経は「般若心経」です。仏教はお釈迦様が作ったものですから、お経の中に必ずお釈迦様が出てくるというルールがありますが、この般若心経は、お釈迦様が出てこない珍しいお経です。その代わりに、このお経の主人公が出てきます。皆さん方も聞いたことがあると思います。冒頭部分の「観自在菩薩」です。「菩薩」は仏様を意味しており、「観自在」が仏様の名前です。この「観自在」という名前が重要で、「自分の在りようをよく観ろ」という意味です。私たちは五官を使って外側は上手に見えるが、自分の内側を見なければならないということです。自分を見て、何ができるのか、何がしたいのか、何をしなければならないのかを理解し、腹をくくれば、人間は歩くことができます。「夫婦の間でも会話がなくなるとダメになる、上司と部下の間でも会話がなくなるとダメになる」と私はよく言います。同様に私たち自身も、自分としっかり会話しなければ自分が何をしたいのか分からなくなってしまいます。私は高校や中学校へ法話に行きますが、子供たちにも分かってもらえるように「観自在」を「自分との対話」と訳しました。人と人の間でも対話をしなければ答えは出てきません。それと同じく、自分とも対話しなければ私たちは自分を見つめることができないのです。現代は、テレビ、新聞、ラジオ、雑誌、携帯、スマホなどを通して情報を簡単に手に入れることができるようになりました。だから皆さん方はもの凄く外側に強くなりました。その反面、内側の手入れがおろそかになり、少し追い込まれただけでガタガタと脆くなってしまった。「自分との対話」はとても大事なことですので、ぜひ皆さん方も「自分との対話」をしてください。

## ○まとめ

今日、皆さん方に「心のしくみ」について説明しました。いろいろな話を聴くことによって、自分の人生を豊かにすることができます。そして、自分との対話を絶やさず、人との対話を絶やさずに生きていく人が最終的に幸せを掴むことができると思います。リーダーになればなるほど孤独になります。その時に誰と話をするのか。それは、自分と対話し、自分の腹をくくって歩いていくことが、私は幸せの条件だと思います。今日の話の復習をします。私たちの心は「体験」からできています。その「体験」をやめてしまうと人間はそこで行き止まりです。話を聴くことで人間関係は育っていきます。その時に「聴話」が大事である。そしてもう一つは「観自在・自分との対話」です。今日は「聴話」と「観自在」を皆さん方に覚えていただいて終わりにしましょう。今日、こうして学べたことを感謝します。ありがとうございました。

（文責：事務局）

福島経済同友会のホームページにて、活動状況や今後の予定などいち早く掲載していますので、ぜひご覧ください。　【URL】http://www.fukushima-doyukai.jp/

**編集日誌**

◇暖冬だったとはいえ、暖かな春の日差しが嬉しい季節がやってきました。
◇例年、この時期は桜の便りが各地から届きワクワクするのですが、今年は新型コロナウイルスの影響で様相が一変してしまいました。イベント等の自粛要請を受けて中止や延期が相次いでおり、心の晴れない日々が続いています。
◇これ以上感染が拡大しないことと一刻も早く終息に向かうことを祈るばかりです。（今野）

## □会員企業紹介 【第26回　福島貸切辰巳屋自動車株式会社】

今回は当会の常任幹事を務めていただいている、福島貸切辰巳屋自動車株式会社の坪井社長にインタビューしました。サービスの質を高める取り組みや今後の展望など様々なお話を伺うことができました。

### ○創業の経緯

坪井 大雄 代表取締役社長

大正3年、辰巳屋自動車㈱は県内初のタクシー会社としてT型フォード3台で事業をスタートしました。平成11年に福島貸切自動車㈱と合併し、それぞれの社名を残す形で福島貸切辰巳屋自動車㈱としました。

### ○経営理念

当社は、お客様第一主義のもと「安全・安心・丁寧」をモットーに安全運行に努めています。時代の変遷とともにお客様の新たなニーズに応えていくことも重要ですが、お客様の命を預かっていることはいつの時代も変わりはありませんので、安全で快適な空間を提供することを常に心掛けています。

### ○「公」としての使命

東日本大震災発生直後、鉄道の運行がストップした際、当社のタクシーを利用し目的地まで行くことができたと、後日、お客様から感謝の言葉を頂戴しました。このことが、タクシーも公共交通機関として地域を支える役割を担っているという認識を深めるきっかけとなりました。

年数回の班別会議を実施し、風通しの良い職場環境の構築や、社員のスキルアップに努めています。また、朝礼や点呼の時には、社会人としてのモラルアップ、法令遵守を徹底しています。これらのことは、社会人として当然のことですが、公の交通機関であるということを念頭に置いて当たり前のことを徹底しています。

### ○様々な取り組み

二酸化炭素等温室効果ガスの削減目標を事業所ごとに福島県知事と議定書として取り交わし地球温暖化対策に取り組む「福島議定書」事業に、開始された平成20年から毎年参加しており、環境に優しいタクシー会社を目指し、二酸化炭素排出量の削減や節電・節水に努めています。

クラウド型配車システムを導入しており、配車室では画面上で簡単に配車ができ、運転者はタブレット上で配車場所や配車情報を確認できます。また、電話をかけずにタクシーを呼ぶことができるスマホ専用アプリ「Japan Taxi」を利用した配車サービスも導入しています。このアプリは、全国47都道府県で利用可能で、ネット決済機能を利用することによりタクシー車内での支払い手続きが不要となります。

今年、福島市にとって大きなイベントがあります。3月30日より、福島市出身の作曲家古関裕而氏をモデルとしたNHK連続テレビ小説「エール」の放送が開始されることです。タクシー業界にとっても明るい話題ですので、全運転手向けの講習会を開催するなど関係機関と連携して業界全体で取り組んでいます。

### ○未来を見据えて

情報通信技術の発展とともに産業の各分野においてICT化やデジタル化が進んできており、交通分野も例外ではありません。出発地から目的地まで利用者にとっての最適経路を提示するとともに、鉄道・バス・タクシー等の複数の交通サービス手段を一括して提供するサービス「MaaS（マース）(Mobility as a Service)」の取り組みが全国で始まっています。そのなかでタクシーが担う役割は、高齢化や過疎化が進む地域における「ドア to ドア」の交通手段としてとても重要と考えています。今後、地方自治体と連携を図りながら、移動における不便さを解消させることにより、暮らしやすさの向上を目指して参りたいと考えています。

創業以来、100年以上に亘りタクシー事業を続けてこられたことは、地元の皆様のおかげだと感謝しております。これからも、お客様がより便利にタクシーを利用できるよう、車内快適性の向上、スムーズな配車の実現、多様な支払いへの対応などサービス向上に努めて参ります。

| | |
|---|---|
| 住　　所 | 〒960-8102<br>福島市北町3-30 |
| 創　　業 | 1914年1月7日 |
| 従業員数 | 89名 |
| T E L | 024-523-3241 |
| U R L | http://www.fkt-taxi.com/ |